

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

和歌山県

学校名

印南町立切目中学校

人権課題

子供の人権

対象学年・
取り扱った教科等全学年・
道徳、学級活動

目標・人権教育のねらい

生徒自身が、「子供の人権」についての理解を深めることにより、いじめや体罰、児童虐待などの人権問題に対応する知識や能力を身につけ、一人ひとりが子供らしく生き生きとした生活を送ることを目指す。

実施した内容

- ①ヤングケアラーについての資料等を活用し、理解を深めた。
- ②「トマトとメロン」を教材に、自己を見つめ自己の向上を図り、充実した生き方を追求することを考えさせた。
- ③「ヨシト」を教材に、差別や偏見によるいじめについて考えた。
- ④より良い学級にするためのグループアプローチを実施した。

工夫した点

- ①問題解決に向けて学級討議を行い、対策等を考えさせた。
- ②自分の長所や課題を学級内で共有しあうことで、自他の良さを知ることができた。
- ③自分たちの学校生活に置き換え、いじめ行為は無いか、いじめがない学級をつくるためにはどうすれば良いか等を考えさせた。
- ④自分が普段感じていることを発表させることで、級友がどんな思いをもっているか、より良い学級にするためにどうすれば良いかを考えさせた。

他教科との関連

- ・社会科にて、基本的人権について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「命は、かけがえのない大切なものです。」という質問で、肯定的な回答が**87.2%(9月)**、**87.2%(1月)**と一定であった。
 - ・価値的・態度的側面：「よりよい集団づくりに自分から進んで参加しようとしています。」という質問で、否定的な回答が**15.4%(9月)**から**7.7%(1月)**に半減した。
 - ・技能的側面：「集団の一員として多くの人に支えられていることに気づいています。」という質問で、肯定的な回答が**82.1%(9月)**から**92.3%(1月)**に増加した。
- 全体的に、よりよい集団にするための態度や技能に向上が見られる。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

和歌山県

学校名

印南町立切目中学校

人権課題

障害者の人権

対象学年・
取り扱った教科等全学年・
総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

障害者施設等と様々な活動を通して関わることで、人間関係を構築し互いに認め合うことの大切さに気付くことができる生徒を育む。さらには、他者の立場に立って考え行動する力も育む。

実施した内容

- ・ 1、2年生は学校近くにある障害者施設「陽」との交流学習
- ・ 2年生は日高振興局健康福祉部・印南町社会福祉協議会による「あいサポーター研修」
- ・ 3年生は日高振興局健康福祉部による「手話教室」

工夫した点

人権アンケートの結果からは、「困っている人を進んで助けられるか」という問いについて、「助けたいという気持ちがあっても、実際に行動に移せない」と回答した生徒の割合が高かった。
これらの課題を克服するために、障害者施設見学やあいサポーター研修など地域との交流活動を実施し、実技・体験を通じた学習に取り組んだ。

他教科との関連

- ・ 社会科及び特別の教科道徳の時間にて、基本的人権について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：「様々な価値観をもった人々と暮らしていることを理解している。」という質問で、否定的な回答が2.6%(9月)から0.0%(1月)になった。
 - ・ 価値的・態度的側面：「様々な価値観を尊重しようとする態度を身に付けています。」という質問で、肯定的な回答が82.1%(9月)から89.7%(1月)に増加した。
 - ・ 技能的側面：「自分と異なる価値観を持つ友達に対しても関わるすることができます。」という質問で、否定的な回答が5.1%(9月)から0.0%(1月)になった。
- 全体的に、相手のことを理解しその立場に立って考える力が向上している。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指定都市名	和歌山県	学校名	印南町立切目中学校
人権課題	ハンセン病患者等の人権	対象学年・取り扱った教科等	3年生・総合的な学習の時間
目標・人権教育のねらい	ハンセン病施設による研修を通じて、生徒の身近にある課題・今日的な課題について考える機会を持ち、生徒の自尊感情・自己肯定感・自己有用感を向上させ、様々なことに自信を持って取り組める生徒を育成することをめざす。		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生が、長島愛生園・田村学芸員から、ハンセン病及び差別の生まれる構造についてオンライン講義を受けた。 ・ 3年生の修学旅行において長島愛生園を訪問し、施設見学を実施した。 		
工夫した点	今年度もオンラインによる講習となったので、事前授業に使用するために、長島愛生園のパンフレットやハンセン病理解のための資料を取り寄せた。さらには、2学期に延期となった修学旅行のコースに愛生園を組み込み、実際に施設を訪問することにより理解を深めた。		
他教科との関連	・ 社会科にて、基本的人権について学習した。		
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識的側面：「自分は、たった一人の大切な存在です。」という質問で、肯定的な回答が74.4%(9月)から82.1%(1月)に増加した。 ・ 価値的・態度的側面：「ありのままの自分を大切な存在と受け止めようとしています。」という質問で、否定的な回答が10.3%(9月)から5.1%(1月)に半減した。 ・ 技能的側面：「誰に対しても公平です。」という質問で、肯定的な回答が69.2%(9月)から87.2%(1月)に増加した。 <p>全体的に、命について深く考える機会をもつことにより、自尊感情等の向上につながっている。</p>		

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

和歌山県

学校名

印南町立切目中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等全学年・
学級活動、総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

本校ではLINE等SNSを使用する生徒が9割近くいる。生徒の中には使用方法を誤り、他者を傷つけることもあったため、「正しいSNSの使用方法」について考え理解し、お互いを大切にすることを養う。

実施した内容

- ・全校生徒が6つの縦割り班になり、スマートフォンの利用について意見を出し合い、班でまとめて発表を行った。さらには、全体の意見をまとめ学校でのルールを決めた。
- ・体育館において、和歌山IT教育機構の佐々木哲氏に講演していただき、講演終了後各クラスで振り返り会を行った。

工夫した点

縦割り班で協議を行い、その内容をまとめて発表させることにより問題に対する関心や理解を深められるようにした。
PTA教育講演会でもSNS研修会を開催し、保護者に対しても意識付けを行った。

他教科との関連

- ・社会科にて、基本的人権について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「“考える”ことが、友達とのコミュニケーションの基本です。」という質問で、肯定的な回答が79.5%(9月)から74.4%(1月)に減少した。
 - ・価値的・態度的側面：「友達をいつも大切にしようとしています。」という質問で、肯定的な回答が84.6%(9月)、84.6%(1月)と一定であった。
 - ・技能的側面：「自分の考えをわかりやすく友達に伝えることができます。」という質問で、肯定的な回答が53.8%(9月)から76.9%(1月)に増加し、否定的な回答が12.8%(9月)から5.1%(1月)に減少した。
- 全体的に、知識や価値・態度は大きな変化はないが、技能は大きく向上している。